

TF トランスファー

目次

概要・作業上の注意	TF- 2
概要	TF- 2
作業上の注意	TF- 2
トランスファー	TF- 3
ATTESA E-TS PROシステム (RB26DETT)	TF- 4
ATTESA E-TS PRO作動油	TF- 4
真空引き	TF- 4
油圧配管	TF- 5
取り外し	TF- 6
取り付け	TF- 6

TF

概要

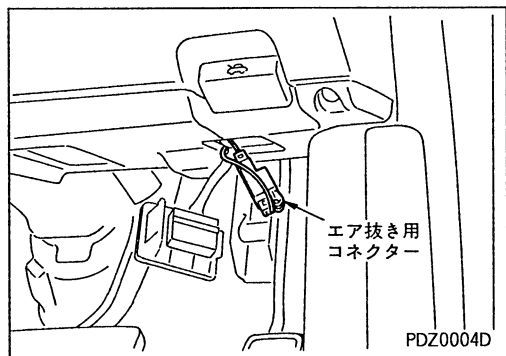
ここでは、トランスファーの構成図及びATTESA E-TS PROシステムのATTESA E-TS PRO作動油、油圧配管について記載する。

オートマチックトランスミッション搭載車のトランスファー本体の整備要領については、「スカイラインR33型整備要領書追補版 I (A006025)」及び別冊「トランスファーETX13A型整備要領書 (A261K02)」を参照のこと。

ATTESA E-TS PROシステムについては、従来型車のE-TSシステムとアクティブLSDシステムを統合したシステムであり基本的には従来型車のE-TS及びアクティブLSD個々のシステムと同様である。上記以外の整備要領については、「スカイラインR33型整備要領書 (A006022) P D編及び追補版 I (A006025) TF編」を参照のこと。

作業上の注意

- トランスファー脱着はトランスミッションと共に行うこと。
- マニュアルトランスミッション搭載車のトランスファー本体に不具合が発生した場合は、トランスミッションと共にASSYで交換すること。
- トランスファーからマニュアルトランスミッションは絶対に取り外しを行わないこと。
- ATTESA E-TS PRO故障診断はABSコントロールユニットと同一のためBR編を参照のこと。
- ATTESA E-TS PROの作動油は日産パワーステアリングフルードスペシャルを使用すること。
- ATTESA E-TS PROの作動油、潤滑油は再使用しない。



ATTESA E-TS PRO作動油

真空引き

アクチュエーターASSY、配管等の部品交換後ごくまれにキースイッチON又は、OFF時アクチュエーター付近より異音（ボン音）が発生することがある。この場合下記手順で真空引きを行いアクチュエーター及び配管内のエアを完全に排出する。

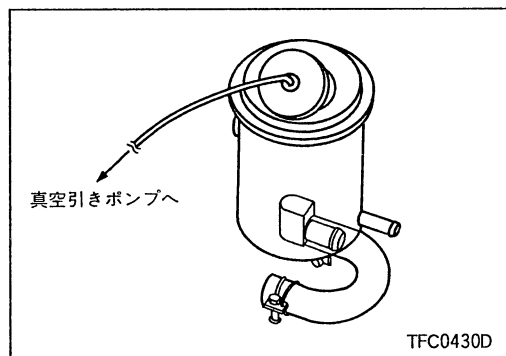
1. 各配管の接続部が確実に取り付けられているか、またリザーバタンク内のオイル量が十分にあることを確認する。
2. エア抜き用コネクタを外し、キースイッチをONにして10秒以内にブレーキペダルを5回踏み2WD状態にする。この時4WD及びアクティブLSD警告灯が2回/1秒で点滅する。
3. タンクキャップ上部のカバーを取り外し、タンクキャップにバキュームホース及びエアコン用の真空引き用ポンプを接続して-96 kPa {720mmHg} 以上で約20分間真空引きを行う。

参考：真空度が十分に出ているかどうか、ゲージマニホールドを伸介させて確認できれば、さらに望ましい。

注意：

- 異種のオイルが混入するとオイル漏れの原因となる場合があるためバキュームホースは十分に洗浄してから使用すること。
- 作業終了後、キャップ表面に付着したオイルを完全に拭き取ること。

4. 作業終了後、キースイッチをOFFにしてエア抜き用コネクタを接続し4WD状態へ戻す。



油圧配管 (続き)

取り外し

- ATTESA E-TS PROアクチュエーターのエアブリーダー及びトランスファー及びファイナルドライブのアクチュエーター側エアブリーダーを開放し、作動油を抜き取る。
- 前ページ図を参照し、チューブクランプブラケット、チューブクランプ、アイボルトを外し油圧配管を取り外す。

取り付け

- 前ページ図を参照し、規定トルクで締め付け、油圧配管のエア抜きを行う。(「スカイラインR33型整備要領書 (A006022) アクティブLSDシステム、追補版 I (A006025) E-TSシステム、エア抜き」の項参照)

@gabednconfused

@gabednconfused

@gabednconfused

@gabednconfused